

明和地域における義務教育学校について

義務教育学校って、
どんな学校？

義務教育学校になると
どんなことが期待できる？
課題は？

今ある義務教育学校は、
実際、どんな様子？



これまでの経緯は？
これからの流れは？

5月2日（金）明和小学校
5月8日（木）明和中学校
鹿児島市教育委員会学校整備室

1

義務教育学校とは？

一人の校長先生

一つの教職員組織

9年制の学校

（前期課程6年＋後期課程3年）



一貫性

多様性

2

求められる背景

- ・全国238校（R5は207校、年々増加）
- ・県内17校

R6 学校基本調査より

- ①義務教育の目的・目標規定の新設
- ②小学校への英語教育の導入や中学校の授業時間数の増加など、近年の**教育内容の量的・質的充実**への対応
- ③小学校高学年段階における児童の**身体的発達の早期化**等に関わる現象
- ④中学校進学時の不登校、いじめ等の急増など、**中1ギャップへの対応**
- ⑤少子化に伴う**学校の社会性育成機能の強化**の必要性

3

期待される効果

専門的な指導
きめ細かい指導

コミュニケーション力、
思いやりの心の育成

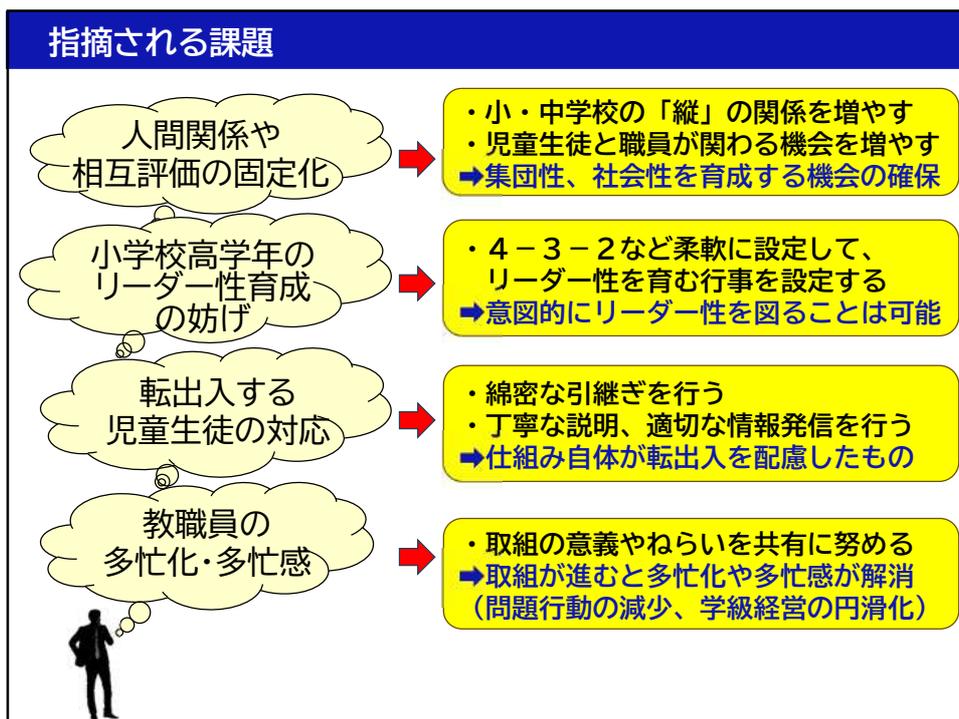
小中学校間
ギャップの緩和

一人一人が
安心感を得る

責任感の
高まり、
学校全体の
落ち着き



4



5

視察① 県内の義務教育学校

<p>金峰学園（南さつま市）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開校時期 令和5年4月 ・児童生徒 398人（R6.4月） ・金峰学（命、交流、郷土、英語） ・フェスタ（7月合祭、11月文化祭） 	<p>日吉学園（日置市）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開校時期 令和3年4月 ・児童生徒 236人（R6.4月） ・ひおき学（ひおきふるさと教育） ・旧小学校区での学習（土曜授業）
<p>東郷学園（薩摩川内市）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開校時期 令和元年4月 ・児童生徒 400人（R6.4月） ・ふるさと・コミュニケーション科 ・東郷もりあげ隊（5～9年生以上希望者） 	<p>鶴荘学園（出水市）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開校時期 平成29年4月 ・児童生徒 103人（R6.4月） ・「ツル科」による探究活動 ・5年生から部活動に入部可能

地域の資源（ひと・もの・こと）を生かした教育

6

視察② 県外の義務教育学校

高知市立土佐山学舎

- ◆開校時期 平成28年 ◆児童生徒 144人 (R5.4月)
- ◆校区外通学者74人、バス4台)、小規模、大自然を強みに
- ◆生活・総合(土佐山学)が中心、1年生から英語教育

渋谷区立渋谷本町学園

- ◆開校時期 平成24年 ◆児童生徒 870人 (R6.4月)
- ◆シブヤ未来科(My探究)、渋谷区全体での取組
- ◆学校スタッフの充実、大学生ボランティアの活用

つくば市立みどりの学園

- ◆開校時期 平成30年 ◆児童生徒1595人 (R3.5月)
- ◆ドローン、ロボット、生成AI、3Dプリンターの活用
- ◆プログラミング学習の充実、SDGsやSTEAM教育に応用

地域の実情に合わせた様々な義務教育学校の形がある

7

よくある質問

01	義務教育学校になると、教員が減らされるのではないかな？
A	教員の定数は、国の基準をもとに学級数に対して算出されます。明和の場合は、小学校・中学校それぞれの学級数に応じて配置されるので、今の状況と変わりません(校長は一人になります)。小学校の先生と中学校の先生が一つの学校の中に在籍することになりますので、児童生徒一人一人に関わる教員の数は、むしろ多くなるといえます。
02	小学生と中学生と一緒に学校生活を送るのは、無理がないかな？
A	教育の現場では、様々な考え方や価値観にふれることがもとめられています。発達の段階はしっかりと踏まえつつ、異学年との交流、ときには校種、世代を超えた人々との交流の中で、多様性のある学びを確保していくことが大切であると考えます。校庭や図書室などを共用することについても、十分にスペースは確保し、時間割や運用の工夫で対応できるものと考えます。
03	義務教育学校で、どんな教育をするのか、示さないのかな？
A	時代観や地域の実情を踏まえ、学校・家庭・地域が一緒になり、対話を繰り返しながら、明和の子供たちの未来の姿を思い描いていくことが大切だと考えます。どんな教育をするのか具体化していくためにも、まずは、目指す子供の姿を明らかにし、みんなで共有することに努めた上で、教育の具体化を図っていくものと考えます。

8

これからの学校・教育 ～学習指導要領前文より～

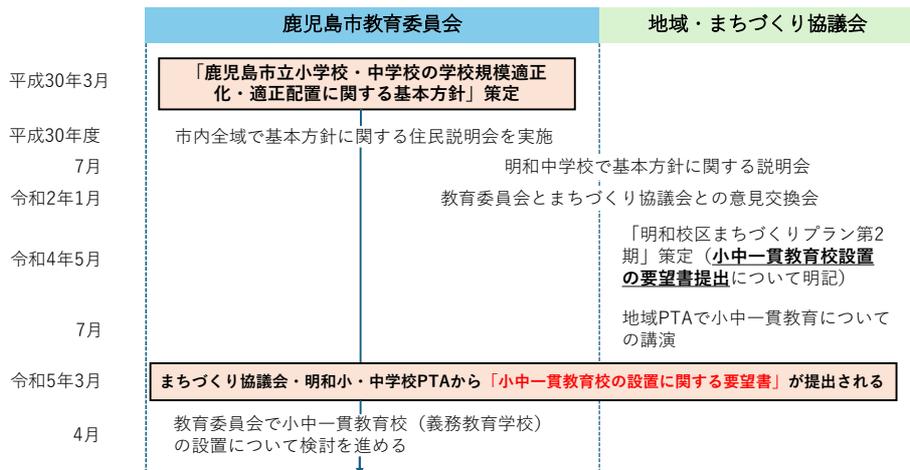
◆「一人一人の資質・能力を伸ばせるようにしていくことは、教職員をはじめとする学校関係者はもとより、家庭や地域の人々も含め、様々な立場から児童や学校に関わる全ての大人に期待される役割」

小中一貫教育は「手段」
「目的」ではない



9

検討経過と今後の流れ①



10

検討経過と今後の流れ②

